

(1) 施策の見直しの方向性に関する意見

分類	意見要旨
公園	公園が区民に活発に利活用されていることが重要であり、多世代が集えるような場所を目指してほしい。
	シンボルツリーに限らず、シンボルになるものを作ることで、親しみやすさを創出してほしい。
	公園の確保が困難な地域では、積極的に機能分担を進めていくという考えなのか。小規模な公園には、園庭がない保育園が利用するといった役割もあるので、地域の実情に配慮しながら整備を進めてほしい。
	公園や緑地の区民活用に関する施策にも踏み込むと満足度向上にもつながるのではないかと。
街路樹	街路樹の多様性や方針はどう考えているのか。限られた樹種ばかりにならないよう、周囲の意見も聞きながら決めていってほしい。
公共施設	緑化基準の見直では、緑化量と箇所は増やしていく、樹種は多様性のある樹種にしていくということか。都や他自治体の緑化基準と比べて多いところは、残しておいてほしい。緑化率を30%以下にしないでほしい。
	次世代を担う子供たちがみどりと関わりを持てるような、学校施設の緑化の方向性となるのか。
	大木や老齢木の健全育成や更新に関する方針の検討という新しい課題がでたことは大きな前進。事故対応などもきめ細かく対応できる体制としてほしい。
	石神井公園内、旧としまえん敷地内などでも見られる「ナラ枯れ」への対応といった点からも樹木の健全育成に取り組んでほしい。

分類	意見要旨
樹林地 ・ 大木	樹林地の取得は進められているが、どのような基準で取得しているのが明らかにすべきである。
	憩いの森はできる限り財源を確保し、買い取ってもらいたい。特に区民活動しているところは買い取ってほしい。
	樹林地などの所有者の声を丁寧に把握し、支援策に反映、拡充してほしい。
	生産緑地は優遇制度があるが、樹木などのみどりは優遇制度がなく、相続などによって減っていく一方である。カーボンニュートラルを推進する観点からも、生産緑地制度のような新たな優遇制度を構築してほしいと要望を出すぐらいの勢いが必要ではないか。 樹林地などのみどりも生産緑地のような優遇制度を新たに構築してほしいと国や都へしっかりと要望してほしい。
農地	生産緑地で相続等があった際には、区が買い取って残していくことが重要ではないか。
	もともと畑であった場所は、農園的な公園や、公園の一角でも農を感じられる空間づくりがされるとよい。
宅地 の みど り	助成制度などの再構築においては、基準の検討と同時に活動を継続させるためのソフトの支援も検討してほしい。
	みどりの質の観点から、連続性や統一性を考えて街路景観の質を上げていく誘導策を検討するのはよい。期待している。
	地域の方とのワークショップや若者を対象としたシンポジウムなどで一緒に考えていくことで、新しい取組につながるのではないか。
	緑化後に道路にはみ出すなどして困らないように、樹種選びの助言や緑化後の指導をしてほしい。
	民有のみどりは、直接コントロールできないので、区民の方々の気持ちや活動を誘因する創意工夫が求められている。
	緑化基準により事業者が緑化しても、最後は住む人次第になるところが難しい。
	開発行為だけでなく、一軒の家の建築確認にも必ず緑化計画を出すところまで踏み込むのか。 新しく建つ家は敷地面積300㎡未満となるものが圧倒的に多いが、300㎡以上から緑化義務が生じ、負担感が高く、不公平だ。敷地面積に関わらず、全棟に助成金を出して、5年後10年後に樹木の状況報告を求めるなどすれば、緑化に対する区民の意識も大きく変わり、公平なのではないか。
	連続性や統一性を考えて街路景観の質を上げていく誘導策を検討するのはよい。緑地協定制度を活用していくことは良いことだ。

分類	意見要旨
区民全体働	<p>身近なみどりを身近な人が本当に好きになっていくことが一番大事である。そのような取組を進めてほしい。</p> <p>これからの施策は、区民がみどりに愛着をもってもらう観点と利活用に関する方策が重要である。みどりに愛着をもってもらう取組やみどりを活用した区民の活動を増やしていくことが大切だ。</p>
周知	<p>景観100選といった取組をしてはどうか。</p> <p>町会連合会などにも働きかけ、みどりを守ることの大切さをもっと浸透させる工夫が必要ではないか。</p> <p>子どもたちは、SDGs、エコ、カーボンニュートラルなど、地球温暖化に関して興味がある。みどり施策も子どもに向けた取組や子どもが関心を持てる取組を強化してほしい。</p> <p>次世代を担う子どもたちがみどりと関わりをもてるような学校の緑化としてほしい。</p>
個人のみどりを地域で守る	<p>みどりを介してコミュニティをつくるという視点で取組むとよいのではないか。</p> <p>地域の方とのワークショップや若者を対象としたシンポジウムなどで一緒に考えていくことで、新しい取組につながるのではないか。</p> <p>落ち葉を通じて近隣の関係が強くなり、みどりも自分の財産と思えるように、区が仕掛けていく必要がある。</p> <p>落ち葉の管理は保護樹木1本であっても大変である。地域の方が手伝いしやすいようなムーブメントを区からもっと起こしてほしい。</p> <p>落ち葉清掃は、清掃手間が楽になるという効果も多少はあるが、近隣に向け、みんなが大切にしているということのPR効果がとてもあると思う。今後も継続してほしい。</p> <p>落ち葉清掃は有難いのだが、落ち方にむらがあるため、活動日に落ち葉が少ないことなどもあり、申し訳ないと思うこともある。さら工夫できると有難い。</p> <p>落ち葉の腐葉土化なども検討し、配るとよい。</p>
育成体	<p>活動団体の交流は、活動している区民の気持ちを高めたり、対外的にもシンボリックに活動状況を示せることから効果がある。</p>
基金	<p>基金はハードだけではなく、ソフトにもしっかり使ってほしい。特に新しい施策での活用がよいと思う。</p>

(2) 計画全体に関する意見

分類	意見要旨
目標・将来像	<p>満足度80%というのは何のために目指しているのか。 みどりを守り増やすことでなにを目指しているのか、満足度が向上することと、みどりを増やし守ることの関係がわからない。</p>
	<p>みどりを増やす目的をもっと強調し明確にした方がよい。気候変動、健康増進やグリーンインフラなど明確な目的に共感できると、区民は行動しやすくなるのではないか。もう少し切り込んだ戦略性を持った見直しが必要だ。</p>
	<p>目的がはっきりしないとどこまで施策として踏み込むべきか検討しにくい。</p>
	<p>みどりの活動に参加したい区民が多い。自ら積極的に活動する区民を80%に増やすくらいの目標があってもよい。</p>
	<p>私有地のみどりが減少するなかで、公有地のみどりとして残す努力が必要だ。みんなで努力すればいいと思う。</p>
	<p>将来の骨格として、どのように重要な地域をつくっていくのかを、もう一回見直していただき、どのようなところを担保の優先性とするのか、もう少し客観的な説明ができるといい。</p>
	<p>景観や歴史性、文化性など、総合計画の中に盛り込みにくい側面、質的なものだとか、地域性に関するものをもう一回拾い上げて、より良い改善ができたらいい。</p>
	<p>練馬区は面積がとても広いので、地域差があり、住宅地、みどりがとても豊富な地域、畑があるところと密集しているところ、それぞれ地域の特性に応じた積極的な手だてが必要である。</p>
計画の推進	<p>個別課題ごとの今後の方向性は深まっているが、重複している課題もあるように思えるので、どうすれば同時解決できるのか、ジョイント事業ができないかという観点で検討の幅を広げていくとよいと思う。</p>
	<p>助成金は非常に大きな手段となるため、その助成をうまく活用する手段を、もう少し発展させていけるといいと思う。</p>
	<p>どういうところをセットとして、複合的によくできるかという考え方は、総合計画の中で重要な部分である。</p>
	<p>みどりがなくなったら日陰もなくなり、そこに住んでいる生物もいなくなる。しっかりとカーボンニュートラルなどの環境施策と連携を図ってみどりを守る取組をしてほしい。 CO2表示板などの良い取組のように、環境教育などの取組とも連携してほしい。</p>